

Members

Professor 伊藤香織
Assistant Professor Andrew Burgess

M2	M1	B4
鈴木俊	川越拓志	佐藤彰哲
植木規喬	菅野碧	川上哲平
大家弘也	中野拓朗	北川淳
落合みずほ		黒田博嗣
柴田史奈		小林稜介
		佐野健太
		鈴木由貴
		高橋大輝
		福嶋佑太
		堀野智寛
		松村凌汰
		山下愛子

fab C, vol.12
2018年1月1日発行

□編集
小林稜介 山下愛子

□発行
東京理科大学理工学部建築学科
伊藤香織都市計画都市デザイン研究室
〒278-8510
千葉県野田市山崎 2641
TEL 04-7123-4785
URL <http://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>

□印刷・製本
祥美印刷株式会社



研究合宿

目次

- 03 研究合宿
- 08 プロジェクト
- 10 都市との新たな出会い
- 14 ピクニックインタビュー 齋藤精一さん
- 18 論文 & 設計

fab C. は伊藤研究室（東京理科大学工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。



2017年9月11日から13日に、宇都宮大学都市計画研究室（大森宣暁先生・長田哲平先生）・長岡技術科学大学都市交通研究室（佐野可寸志先生・鳩山紀一郎先生・伊藤潤先生・高橋貴生先生）と合同で、伊香保・高崎にて研究合宿を行いました。各大学の学生や教員の方々の研究発表、懇親会などを通して意見交換し、多くの刺激を受けました。2日目と3日目はまち歩きもしました。

1 日目

東京理科大学 学生発表

東京理科大学 学生発表

- クリエイティブ産業が求めるオフィス環境
- 地方都市におけるフードアクセスの研究
- 富山型デイサービス事業所の障害者就労継続支援に関する研究
- 河川の再整備事業に関する研究
- 大学キャンパスにおける学生行動特性に関する研究
- ライブ・コンサート前の過ごし方にみる新たな都市ツーリズム
- 市民による低未利用地活用の手法
- 高齢者の日常的余暇活動による QOL から見た都市構造・交通
- 富山グランドプラザ事業が周辺市街地への愛着形成に及ぼす影響に関する研究

長岡技術科学大学 学生発表

冬期交通における気象特性を考慮した時間信頼性予測モデルの構築と活用に関する研究

道の駅ちぢみの里おぢやと周辺店舗の連携による地域活性化の可能性
デマンド交通の相乗マッチング方法による運行経費削減効果
規範的避難行動に基づく柏崎地域の避難時総被ばく線量推計シミュレーション

長岡まつり花火大会における経路選択モデルの構築と渋滞施策の評価

夕食の後、懇親会を行いました。
他大学の教授や学生とお酒を呑みながらフランクに会話することができて、楽しい会となりました。



宇都宮大学 大森宣暁教授

交通研究分野における重要概念である「本源需要と派生需要」、「移動の正の効用と負の効用」、「総旅行時間一定の法則」に基づき、「自動運転」や「どこでもドア」(のような技術)が実現した社会について考察しました。



東京理科大学 Andrew Burgess 助教

東京に来る観光者について研究しています。SNS (twitter や Weibo) のデータを使ってテキストマイニングと位置情報で観光者の移動と活動を分析しています。こういったビッグデータで色々な観光者の違いがわかります。



2日目

長岡技術科学大学 学生発表

宇都宮大学 学生発表

懇親会

宇都宮大学 学生発表

免許返納を考慮した交通行動シミュレーターを用いた健康モビリティ・マネジメントの効果分析
自転車走行空間における自転車走行実態からみた自転車の走行安全性確保に関する研究
歩行者・自転車共存空間としての商店街における通行快適性に関する研究
自動車運転技術が移動にもたらす移動の正の効用に関する研究
LRT 沿線において子育て支援施設を整備する有効性についての研究
宇都宮市市街地区域と市街化調整区域における住民の外出実態及び地域愛着との関連
地方都市における愛着と居住地域の都市施設整備の関係性に関する研究
宇都宮市のコンパクトシティ実態前後による貨物車の配送距離削減効果に関する研究
大規模小売店舗立地法における地域の基準の設定状況と大規模小売店舗新設件数の関係性

教員発表

長岡技術科学大学 鳩山紀一郎特任准教授
昨今の情報の大量化や分析技術の向上により、気象実績情報と渋滞実績から将来の道路混雑を予測するなど、既存データから地域に役立つ交通情報がある程度の確度で提供可能であることを示しました。



東京理科大学 伊藤香織教授

シビックプライド(都市に対する市民の誇り)の概念を説明し、愛媛県今治市での調査に基づいて都市環境とシビックプライドの関係を分析した研究について紹介しました。



伊香保温泉の中心である石段街温泉街は、戦国時代末期に形成されました。「わが国第一号の温泉都市計画」の碑もあります。



昼食の後、伊香保ロープウェイに乗って見晴台に行きました。赤城山・谷川岳の壮大なパノラマを望み、渋川市街も見えました。



3日目

アントニン・レーモンド設計の群馬音楽センターは、市民の募金によって1961年に建設されました。日本の代表的モダニズム建築のひとつです。



高崎電気館は1913年開館の映画館で、2001年に閉館しましたが、地域活性化センターとして復活し再び映画上映もするようになりました。タイムスリップ気分が味わえます。



伊香保まち歩き

階段を登った後に伊香保名物のけんちんうどんを食べました。伊香保の水沢うどんは日本三大うどんとして知られ、美味しくいただきました。

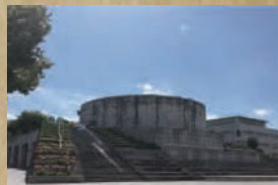


高崎まち歩き

伊香保から高崎に移動し、高崎市街のまち歩きをしました。商店街は閑散としていましたが、オープンテラスなどの新しい取り組みも見られました。



高崎シティギャラリーは、芸術鑑賞・活動の振興拠点としての役割を担っています。私たちが訪れた際、世界のこまなどの回るおもちゃが多数展示されており、皆で大いに盛り上がりました。



高崎まちなかコミュニティサイクル「高チャリ」で烏川や高崎城址まで行きました。



研究室プロジェクト

シビックプライド研究会

2006年から継続しているシビックプライド研究会に、2017年度は研究室から鈴木(M2)川上(B4)が参加しています。今年度は具体的なプロジェクトを視野に、読売広告社ひとまちみらい研究センターとも連携しています。また、『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』が再度重版されました。



アムガラン先生の来日

2016年のウランバートル調査でお世話になったモンゴル科学技術大学のAmgalan Sukhbaatar先生に、建築学科の授業でウランバートルの都市計画について講義していただき、研究室ではショートレクチャーと対話をさせていただきました。お話は学生にとって新鮮なことばかりで、大いに刺激を受けました。



ノルラポ

謝恩会で当たったママチャリが研究室にやってきました！研究室らしい自転車に改造するプロジェクト「ノルラポ」の1回目を、3年生を交えて行いました。展開可能な荷台を設置し、アンケート回収用のポストを装備しました。ピクニックなどでの活躍が期待されます。今後は走行ログを取る改造を計画中です。



学生プロジェクト

商店街の賑わい再生へ

中野拓朗 (M1)

柏市の商店街でのまちづくり活動に参加しています。その一環で、大津ヶ丘商店街で子供向けのペインティング・ワークショップとハローウィンイベントの空間デザインを行いました。この商店街は、高齢化が進んで人通りは減っていますが、周辺は比較的孩子が多い地域です。今回は商店会と協力し、近隣の子供たちを商店街に呼び込むことを目的にしました。東京理科大学、東京藝術大学の学生を中心に企画をし、地域の方々と一緒に取り組んだ結果、200人以上の子供たちが来てくれました。圧倒されるほどの元気で子供たちが楽しんでいる様子を見て、やって良かったと思いました。



WOODRISE ボルドー大会

菅野碧 (M1)

フランス・ボルドーで開催されたWoodRise国際会議に展示するために、9月5日~12日にパピリオンづくりのWSに参加しました。この会議は木造高層建築物に関わる国際企業の意見交換の場で、数多くの木造作品のひとつとして本WSの制作物も会場に展示されました。WSには東京理科大学、ボルドー大学、芝浦工業大学が参加しました。制作には細い木材を用いました。繋ぎ部材が切れて作り直すハプニングもありましたが、3大学で協力して会期までに完成させることができました。私たちの作品は入口近くに展示されたので、多くの方から評価していただき嬉しかったです。WSの合間に、念願のプルス広場の水鏡やル・コルビュジエの作品も見に行きました。



都市との新たな出会い

年度始めに各自10都市を訪問するノルマを与えられた伊藤

ニューヨーク調査

柴田史奈 (M2)

修士論文の調査のため、7月下旬から8月上旬にニューヨークを訪れました。クリエイティブ産業の企業の働き方を把握することが目的です。クリエイティブ産業とは、芸術、服飾デザイン、広告など知的財産権を持った生産物の生産に関わる産業を指します。近年世界各国で支援が行われている本産業は、働き方の違いから従来とは異なるエリアでオフィス需要が拡大しています。中でも、ニューヨークは、クリエイティブ産業の集積地として注目を集めており、古いオフィスや倉庫をコンバージョンするなど、新たな形態のオフィスが多く存在します。そこで私は、ニューヨークを対象に、本産業の集積特性と建物特性について研究を行っています。

現地調査では、本産業の企業に対してオフィス選択理由に関するヒアリング調査と、本産業の企業が多く利用しているシェアオフィスの調査を行いました。企業へのヒアリング調査では、ロフト式のアパートメントにオフィスを構える企業などでお話を伺うことができ、ニューヨーク特有の建物を活用した多様なオフィス形態を把握することができました。また、シェアオフィスの調査では、ナップルーム(昼寝用寝室)やルーフトッパーなど快適に働くための工夫が至る所になされており、最新の働き方に大変興奮しました。訪問したシェアオフィスの多くは近年開業されており、オフィス形態が目紛しく変化していることを改めて実感しました。



研究室のメンバー。それぞれどんな都市に行ったのか聞いてみました。

バルセロナ滞在記

鈴木俊 (M2)

2016年夏から1年間バルセロナ建築学校に留学しました。地中海特有の強い日差しの下、教会の階段に腰かけ、広場で遊ぶ子供たちを眺めながら、冷えたビールを昼間から飲む、そんな生活がすでに遠く昔のように感じます。バルセロナの人々は『生活を楽しみ、より良いものに変えていこうとする』強い意志があります。友達と山にハイキングに行ったり、ビーチで寝っ転がって本を読んだり、家の前の広場で毎週のようにイベントをやっていたり、恵まれた都市環境を使いこなし、日々の生活に深く結びつけている。ここにバルセロナらしさ、学ぶべきところがあると思います。

しかし一方で、現在バルセロナでは、1992年のオリンピック以後、住民の20倍にもものぼる観光客の増加が問題視されており、住民たちの空間が失われつつあります。旧市街を歩くと、観光客で溢れかえり、スペイン語よりも他の言語の方がはるかに多く聞こえてきます。僕の住んでいた地区でも、ホテルの建設反対のデモが行われ、観光という大きな資本に対して住民が自分たちの空間を守っていくという意志を強く感じる事ができました。今回のカタルーニャ独立もその一つの意志の表れだと思います。都市は、誰にとっての居場所なのか、オリンピックという転換期を迎える日本が、今後どうなっていくべきなのか、バルセロナから学びじっくり考えていきたいです。



福島県 新地町

高橋大輝 (B4)

駅舎だけが真新しく周りに家などはほとんどありません。昔住宅が立ち並んでいた場所は今、基礎だけになっており東日本大震災の生々しさが伝わってきました。



石川県 金沢市

福嶋佑太 (B4)

主計町茶屋街では、長きにわたって受け継がれてきた“旦那衆の洒落た遊びの街”の雰囲気を感じます。歴史を感じさせる街みというよりは、現代の金沢の和文化を表現している街と感じました。



イタリア ミラノ

植木規喬 (M2)

ミラノは古くからファッション産業が盛んな都市で、伝統と流行が混ざり合った美しい街並みが印象的です。街並みだけでなく、人柄や料理も素晴らしく観光地として人気であることがよくわかりました。



アメリカ ハワイ

川越拓志 (M1)

ダイヤモンドヘッドに登って日の出を見た時は感動のあまり涙が出そうでした。世界には意図せずこのように人々に感動を与える場所が多くあり、今後もそのような場所に何度も訪れたいです。



北海道 小樽市

佐野健太 (B4)

北海道開拓の拠点として発展した港湾都市、小樽。かつての栄華を今に伝える、運河や歴史的建造物により形成されたレトロな街並みと、海と山の豊かな自然が存在します。



千葉県 柏市

鈴木由貴 (B4)

柏市はカシニワ制度を運用し、空き地や雑木林などの低未利用地を市民団体が借り受け、花壇や菜園、里山として再整備し、緑の公共空間を暫定的に生み出しています。



広島県 尾道市

黒田博嗣 (B4)

瀬戸内のほぼ中央に位置し、海・島の豊かな自然や港町としての歴史などの多彩な資源を有するまちです。また、近年ではサイクリングを満喫できるしまなみ海道や、様々な映画の舞台として有名です。



岩手県 平泉町

堀野智寛 (B4)

平安時代末期に奥州藤原氏三代が、およそ百年にわたって築いた町として有名です。中尊寺や毛越寺、無量光院跡などの遺跡から、当時の繁栄に思いを馳せました。



ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は齋藤精一さんをお招きしました。



齋藤精一さん

株式会社ライゾマティクス代表取締役。ライゾマティクス アーキテクチャー主宰。東京理科大学工学部建築学科を卒業後、コロンビア大学建築都市修景学部大学院で学び、2000年からNYで活動を開始。2006年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、プロダクトデザイン、映像、インタラクティブデザインなどさまざまな活動に携わる。

Q: 齋藤さんは東京理科大学工学部建築学科のご出身ですが、学生時代はどのような設計をされていたのですか？

僕は、卒業設計が空中都市だったんです。その頃環境問題が出てきていたので、50～55kmのところの浮いた都市をつくって日本の人口を全部空に上げちゃおうって、妄想系の作品を作っていました。今の学生を見ていて思うのは、比較的現実的なんだよね。美術系の学生でさえそう。法律的にとか現実的にどうかってことも大事だけど、学生のときは一回その型を外してつくった方がよくて、僕は多分その妄想がずっと続いて今に至ってるわけなんです。妄想からスタートして、それをどう現実にするかを考える。妄想し続けることが大事。

Q: ライゾマティクスのデザインのアイデアはどこから出てくるんでしょうか？

うちは、町工場みたいな技術の会社ですからね。技術があって、デザインもわかると、それで何ができるのかなっていうのを考えるところですかね。NIKE MUSIC SHOE(※)をやるとしたのは、メディアアートとデザインを繋げられないかと思ったところだね。枠にとらわれなくて、こっちの分野ではできてあっちの分野ではできないことをどう融合させるかっていうのが、うちの会社でやっていること。

うちの技術メンバーたちは、必要であれば論文を読んでもね。レーザーとか振動とかアクチュエーターとか。論文を読んで、大学のリサーチャーたちと場合によっては一緒につくってる。リサーチャーの方も、普段メーカーとか相手にしてやってたのが、いきなり表現の分野につながるんで、すごい喜んでくれるんですね。理科大みたいな総合大学だと、物理とか化学だとか基礎工とかあるじゃないですか。そこ情報交換できると実はいっぱいネタが転がってるんだけど、大学は縦割りで、それが当たり前のようにできてないのが残念だなと思います。

※靴を楽器にするというアイデアを実現させた「NIKE FREE RUN+」のプロモーション
<https://www.youtube.com/watch?v=uS1exujG3cY>



Q: 齋藤さんが好きな都市はありますか？

東京じゃないですか。東京が一番面白い、はずなんだけど面白くないというのが問題。なんか危うくなってるなあと。開発をするなら、それぞれのまちの良いところを理解して、それを高めるためならいいんだけど、みんなおなじような施設ばかりつくるから、薄めるための開発みたいになっちゃってる気がするんです。容積率をどれだけ上げていかみみたいなだけで、結局入る店舗は同じだし、入る人たちも同じだし。もっとその場所なりの都市開発や公園設計をしていかなきゃならないんだけど、東京はそれができてない。

あと、プライアンプークだとか、みんな視察に行って、同じようなものをつくるじゃないですか。要は明治維新のときからそうなんです。ちゃんと東京オリジナルをつくるべきだと思うんですね。日本人って海外のいいところを解釈してもう一回つくるのが上手だと思うんだけど、もう少し日本独自で特異的に伸びていく都市開発や、東京はこういうまちのあり方だからこうつくる、ということがやりたい。



Q: 都市計画・都市デザインを学ぶ学生にメッセージをいただけますか？

都市計画から考えるデザインじゃないと、建築は考えられないようになってきていると思うんです。建築単体のデザインだけでなく、都市計画としてその建物がどう機能して、どう周りのネットワークをつくって、どう運営管理するかみたいなこと。だから、都市計画の視点で建築を見られるようになるのもすごく強くなると思う。だからといって、都市計画だから建築はわからないっていうのではなくて、都市計画をがっちりやった上でひとつの建築もつくれるし、周りの計画もできるっていう人たちが、これから必要になってきます。それを肝に命じて、みんなで横のつながりを持って、将来も頑張っていたいただけたらと思います。



【2016 年度卒業論文 (通年)】

平時の行動にみる防災意識に関する研究
- 大田区の2地区を対象として -

本間陽大 森安泰介

景観評価が地域愛着に及ぼす影響
- 愛知県岡崎市を対象として -
(最優秀卒業論文)

荒井沙弥伽 亀山耕太郎

【2017 年度卒業論文 (半期)】

大学キャンパスにおける学生行動特性に関する研究
~ 立地の異なる3キャンパスを対象として ~

高橋大輝 福嶋佑太

ライブ・コンサート前の過ごし方に見る
新たな都市ツーリズム

北川淳 堀野智寛 松村凌太

市民による低未利用地活用の手法 - カシワ制度・地
域の庭の形成プロセスを通して -
(最優秀卒業論文)

鈴木由貴

【2016 年度修士論文】

民泊ホストの意識と住環境の変容に関する研究
- airbnb を活用した世田谷区の一軒家を対象として -

鈴木宗一郎

SNS 投稿にみる訪都外国人観光客の行動特性

宋欽月

郊外スーパーマーケットにおけるイートインスペースの
空間と利用に関する研究

中村健人

北タイ山岳民族の住居にみられる都市化の影響に関する
研究

- チェンライ県のアカ族集落を対象として -

早川貴光

【2016 年度卒業設計】

境界のオブジェクト 植松里緒

郷里の軸・その延長線上 羽川知宏

記憶に継承される島 菅野碧

Guesthouse Kashiwa. 中野拓朗

まちを結う 本橋実紗

【2016 年度修士設計】

交差点の設計 草谷悠介

帰り道の街校 栗田恵

顕現する建築
- realm of social reality -
未富亮

胎動する風景 柳原仁



栗田恵



中野拓朗

【査読付論文】

伊藤香織 (2017), 都市環境はいかにシビックプライドを高めるか: 今治市を事例とした実証分析, 都市計画論文集, vol.52 no.3, pp.1268-1275.

西山貴史, 伊藤香織, 丹羽由佳理 (2017), 皇居周辺ランニングステーションの利用実態と評価構造, 都市計画論文集, vol.52 no.1, pp.48-54.

柴田史奈, 丹羽由佳理, 大家弘也, 伊藤香織 (2017), 街路歩行時に高齢者が感じる負担: シルバーカーの有無による差異, 日本建築学会計画系論文集, vol.82, No.732, pp.451-458.

【査読無論文】

Yukari Niwa, Andrew Burgess, Kaori Ito (2017), Questionnaire Study on the Relationship Between Disaster Awareness and the Recognition of Evacuation Points, International Conference of Asian-Pacific Planning Societies (APPS).

【口頭発表・ポスター発表】

Andrew Burgess, Xinyue Song and Kaori Ito (2017), Mapping Emerging Forms of Tourism in Central Tokyo Through SNS Data, CSIS DAYS 2017 空間情報科学研究センター シンポジウム.

Fumina Shibata, Andrew Burgess and Kaori Ito (2017), A Study of Creative Industry Accumulation and Office Location in New York using Web and Open Data, 2017 International Symposium of IAG'i, Daegu, South Korea.

Andrew Burgess, Xinyue Song and Kaori Ito (2017). The Visualization of Tourist Movement Based on Data from Micro-blogging Sites: A Comparison of Twitter and Weibo Users in Central Tokyo, 2017 International Symposium of IAG'i, Daegu, South Korea.

柴田史奈, Andrew Burgess, 伊藤香織 (2017), オープンデータを用いたクリエイティブ産業のオフィス集積に関する研究, ポスター発表, 地理情報システム学会学術研究発表大会, 宮城大学大和キャンパス.

Kaori Ito. (2017). Civic Pride and Place Attachment through the Medium of the Built Environment. American Association of Geographers 2017 Annual Meeting, Boston, MA, USA.